吉田南中だより

令和５年１月２７日
鹿児島市立吉田南中学校

２月の主な行事

２月					
日	曜	行　事　内　容	日	曜	行　事　内　容
1	水	新１年生入学説明会	21	火	学級専門部会
3	金	期末テスト期間（～10日）	22	水	学年･学級ＰＴＡ　授業参観
7	火	学年朝会			学校保健委員会
8	水	学年末テスト（～10日）	23	木	天皇誕生日
11	土	建国記念の日	24	金	生徒会専門委員会
14	火	１年集金日　全校朝会	27	月	職員会議
15	水	２年集金日	28	火	生徒朝会
16	木	３年集金日			

３年生高校入試

１月23日より，今年の私立高校の入学試験が開始されました。それにあわせて，３年生の進路実現に向けて，生徒会主催の激励会を行いました。生徒会役員作成の応援スライドを映したあと，下級生から３年生に向けて激励のエールを送りました。また，「私たちのためにこのような会を開催していただきありがとうございます。全力で頑張ります。」と３年生代表がお礼と決意の言葉を述べました。

１月末で私立高校の入学試験も終了し，公立高校の入試へと続いていきます。全ての３年生が，希望を実現できるように祈りたいと思います。
『３年生，頑張れ！』

２－２　春の祭典出場

１月22日（日），本校の２－２が学校代表として「春の祭典」に出場しました。この「春の祭典」は県中学校教育研究会音楽部会が主催の，鹿児島県中学校音楽コンクールという，県内すべての中学校に向けて開かれているコンクールです。本校もそうですが，一般的な中学校では校内コンクールの結果，１クラスが出場することが多いようです。昨年は校内コンクール自体が中止となったため，本校では久しぶりの出場となりました。

１１月の合唱コンクールから２か月，授業ではもちろんのこと，朝や放課後の練習を経て，２年２組が出場しました。結果は見事銀賞。堂々と歌いきってくれた結果でした。お疲れ様でした！！

なお，会場内は撮影禁止で，歌っている姿は撮れなかったとのことです。

私の好きだった授業

※先生方の授業の様子を見聞きして，思い出して書きました。

初めて担任をもつクラスで，必ずする授業でした。持ち上がりが多かったので，３年に１度でした。

あるクラスにガキ大将の男の子がいた。その子は悪いこともするけど，人情派で面倒見のいいところもあった。その子がある日，バケツに水をくんできて，おとなしい女の子に，突然頭から水をかぶせた。
もちろん女の子は泣くわけで，担任の先生は男の子にわけを聞いても全然答えない。口をへの字にしたままだった。強くしかられても，ろうかに立たされても，絶対にその理由を言わなかった。
ここまで読んでストップして，聞いてみた。
質問　「どうしてこの子は，水をかぶせたのだと思いますか？」
生徒たちにとっても，興味深い話なのだろう。いろんな意見がでてきた。

・ころんで手がすべった事故・この女の子のことが好きだったから。・おとなしい子だから，強くなれと言う気持ちで。・この子が，火をつけるようなあぶない物を持っていたから消した。・女の子に対してストレスがあって，むかついていた。・女の子がとけるかしらべた？・他の強い子から命令された。

･･･とても，正解だと思えないものもあるが，とにかく授業は「発表させてなんぼ」と考えていたから，これくらい意見が出ると面白い。
子どもたちの予想の一番は，「おとなしかったから強くなれという気持ち」だった。次いで「強い子に命令された」だった。残念ながら，この中に正解がない。そのあと「暑そうにしていたから」とか「眠そうにしていたので起こした」などと１０くらい出されたが，どれもはずれだった。

正解は，とても思いつかないような答えだった。

それから十年以上して，水をかけられた女の子が結婚するときに，初めてそのときの真相を打ち明けた。それによると，その時女の子はおもらしをしていたのだそうだ。スカートから靴下まで濡れてきて，泣きべそをかいて困っていたら，それをみつけた隣のガキ大将が水をかけて助けてくれたのだ。

この答えを伝えたときの，生徒たちの「ガキ大将かっこいい！」，「そうか，すげー！」などのつぶやきを聞くのが大好きでした。そして，それ以上に，「その話を聞いて，隣にいた新郎のガキ大将はものすごく照れていた。」という事実を最後に伝えたときの，女子の黄色い悲鳴を聞くのが何より楽しみな授業でした。

教頭　河野和一

「お茶出し。靴そろえ。見送り。」

ある職場に勤務したはじめに，この３つを教えていただきました。当初，私は，就職してから15年近く経っていたので，「今さら，なんで，こんなことをしないといけないのかなぁ」と思っていました。そういうことの繰り返しでした。

今では，学校や自宅に来た方々に気持ちよく過ごしていただき，帰っていただくために，大切なことだと思っています。
相手の方の車が見えなくなるまで，見送る。ちょっとしたことですが，それだけでも感謝の気持ちは届きます。

ところで，実家の母は，私が帰ろうとするときは，玄関から外に出て，車が見えなくなるまで見送ります。私が，「玄関の下り登りは危ないから，いいよ」と言っても，深く曲がった腰で，玄関先まで歩いて出てきます。長く続いた習慣を変えることは無理なのでしょう。でも，見送ってもらえなくなる時期がきたら，寂しい気持ちになるかもしれません。

いくつになってもできること。「お茶出し。靴そろえ。見送り」。そういう簡単なことが，実はとても大切だと思うようになりました。

今年も，よろしくお願いいたします。

（参考：「100の基本」，松浦弥太郎著，マガジンハウス）

校長　塚元　宏雄